

北海道エリアの2018年度冬季の 電力需給見通しについて

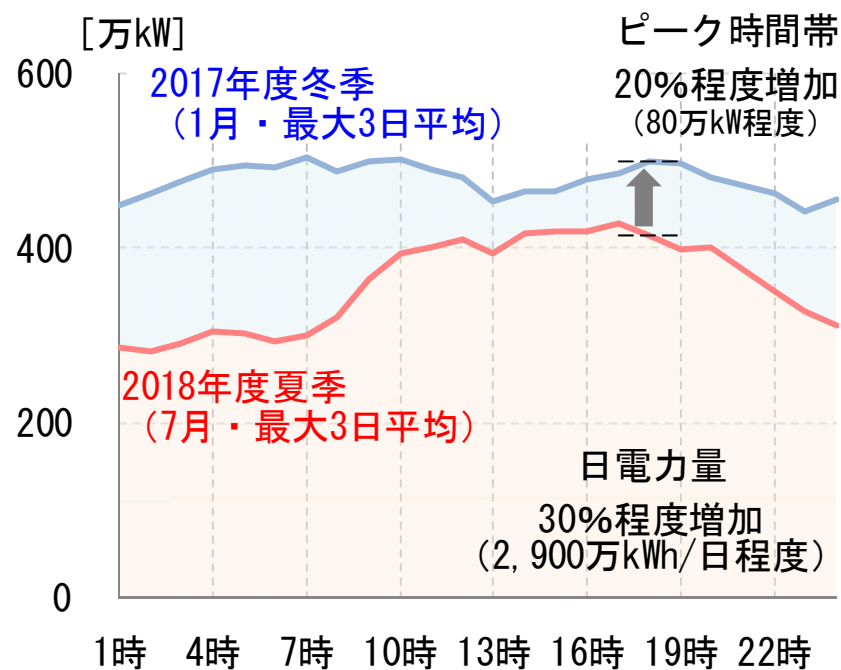
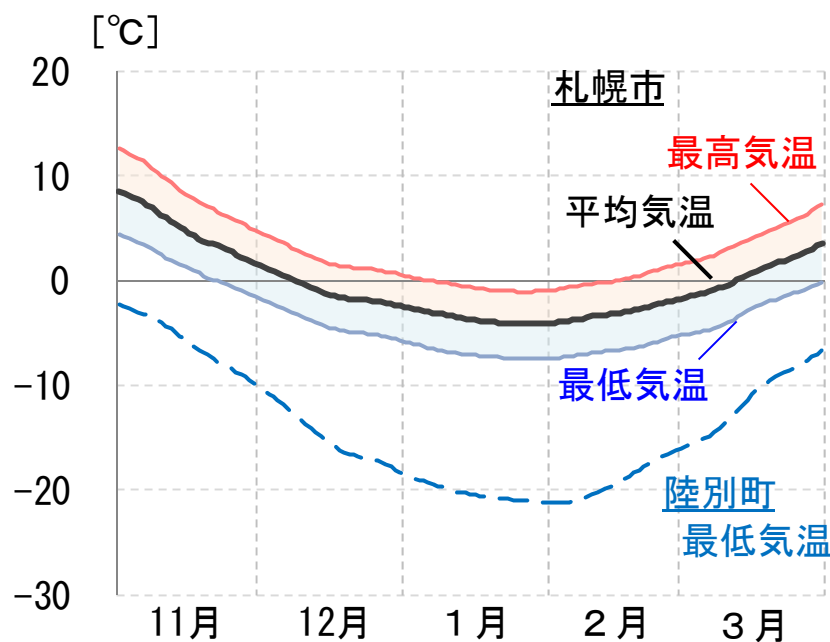
2018年10月23日
北海道電力株式会社

(余白)

1. 電力需要見通し

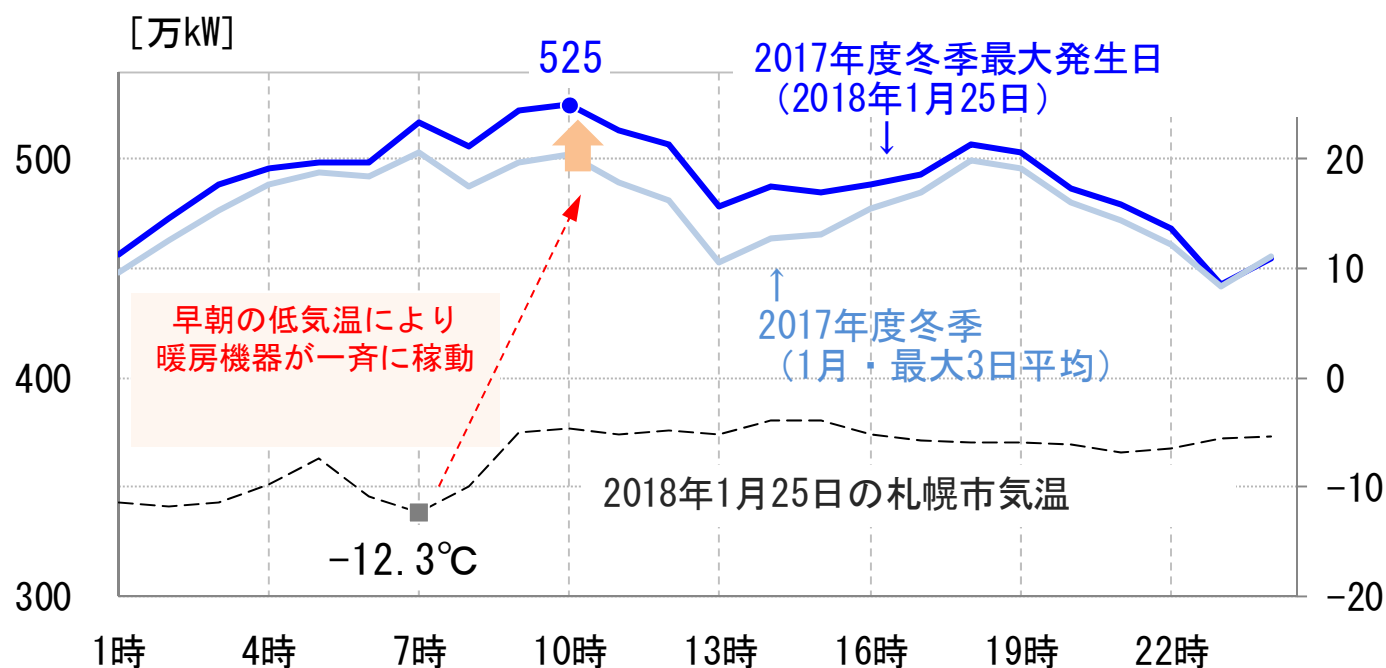
(1) 北海道エリアの冬季の気候と電力需要

- ・ 気温は、1月中旬から2月中旬が最も低く、札幌市では最低気温がマイナス10℃程度となります（内陸部ではマイナス20℃を下回る地域もあります）。
- ・ 冬季の電力需要は、融雪・暖房機器の稼働などから、一日を通じて高い水準で推移し、夏季に比べピーク時間帯で20%程度、日電力量では30%程度増加します。



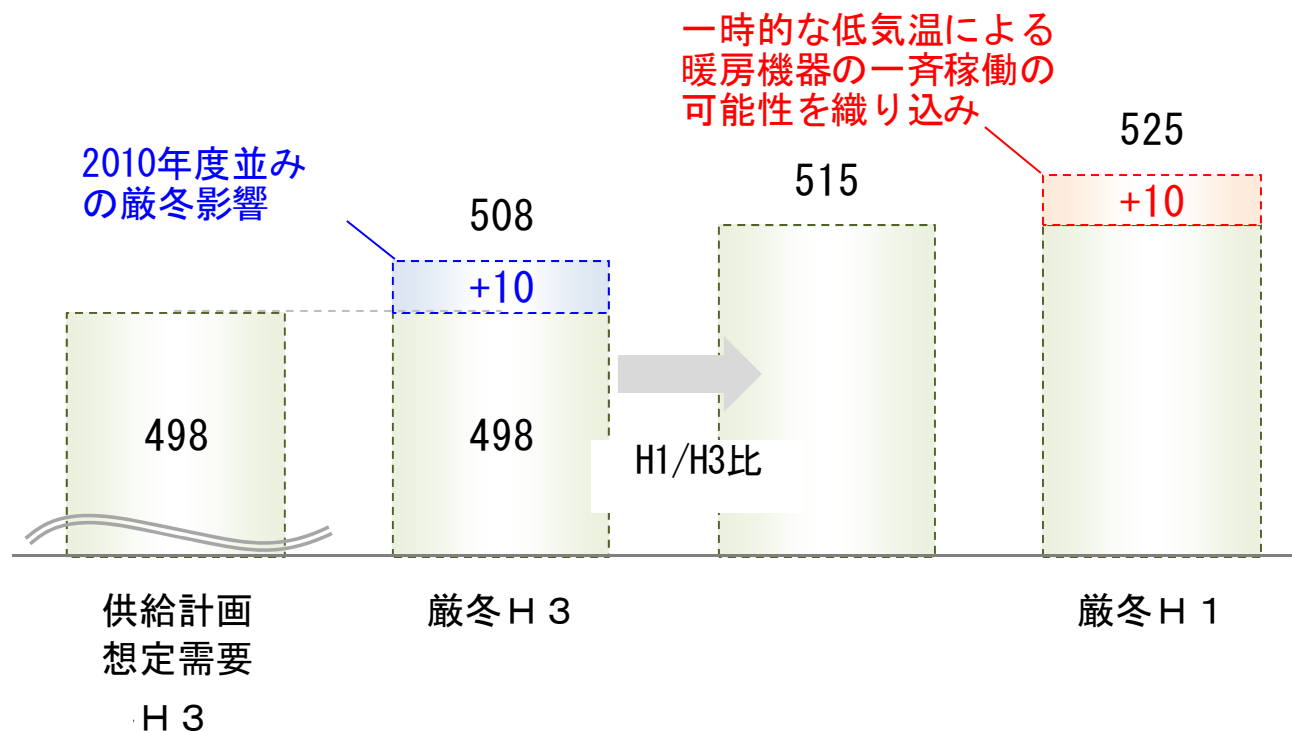
(2) 昨冬(2017年度冬季)の最大電力発生日の状況

- ・ 昨冬の12・1月の最大電力は、照明機器や暖房機器などが同時に稼働する夕方に概ね発生しました。
- ・ 一方、最大発生日(2018年1月25日)は、低気温の通過により、札幌市の午前7時の気温が、マイナス12.3℃と急激に低下したことから、暖房機器が一斉稼働し、午前10時に525万kWに達したものと分析しています。



(3) 今冬(2018年度冬季)の需要見通し

- ・ 需要見通しは、供給計画で想定した最大3日平均電力（H3）を基に、過去10カ年で最も厳寒であった2010年度並みの気象影響を織り込み、厳冬時の1日最大電力（H1）を想定しました。
- ・ 想定においては、昨年の最大電力発生と同様に一時的な気温低下等による暖房機器の一斉稼働が起こる可能性を考慮した結果、525万kWの見通しとなりました。



2. 電力需給見通し

(1) 供給力の状況

- ・ 苫東厚真発電所は、2号機（60万kW）が10月10日に復旧し、北海道胆振東部地震の影響で停止していた全てのユニットが復旧しました。
- ・ また、10月31日に苫小牧火力発電所1号機、11月9日に苫小牧共同火力発電所3号機（ともに25万kW）が復旧予定であり、暖房需要が高まる冬季に向け、供給力の確保を図っている状況です。
- ・ 冬季（12～3月）の供給力は、610万kW程度（発電所の所内電力を控除した送電端での評価）となる見通しです。

復旧・復旧予定	発電設備名		定格出力
9月19日	苫東厚真	1号機	35万kW
9月25日	苫東厚真	4号機	70万kW
10月10日	苫東厚真	2号機	60万kW
10月31日	苫小牧	1号機	25万kW
11月9日	苫小牧共同火力	3号機	25万kW

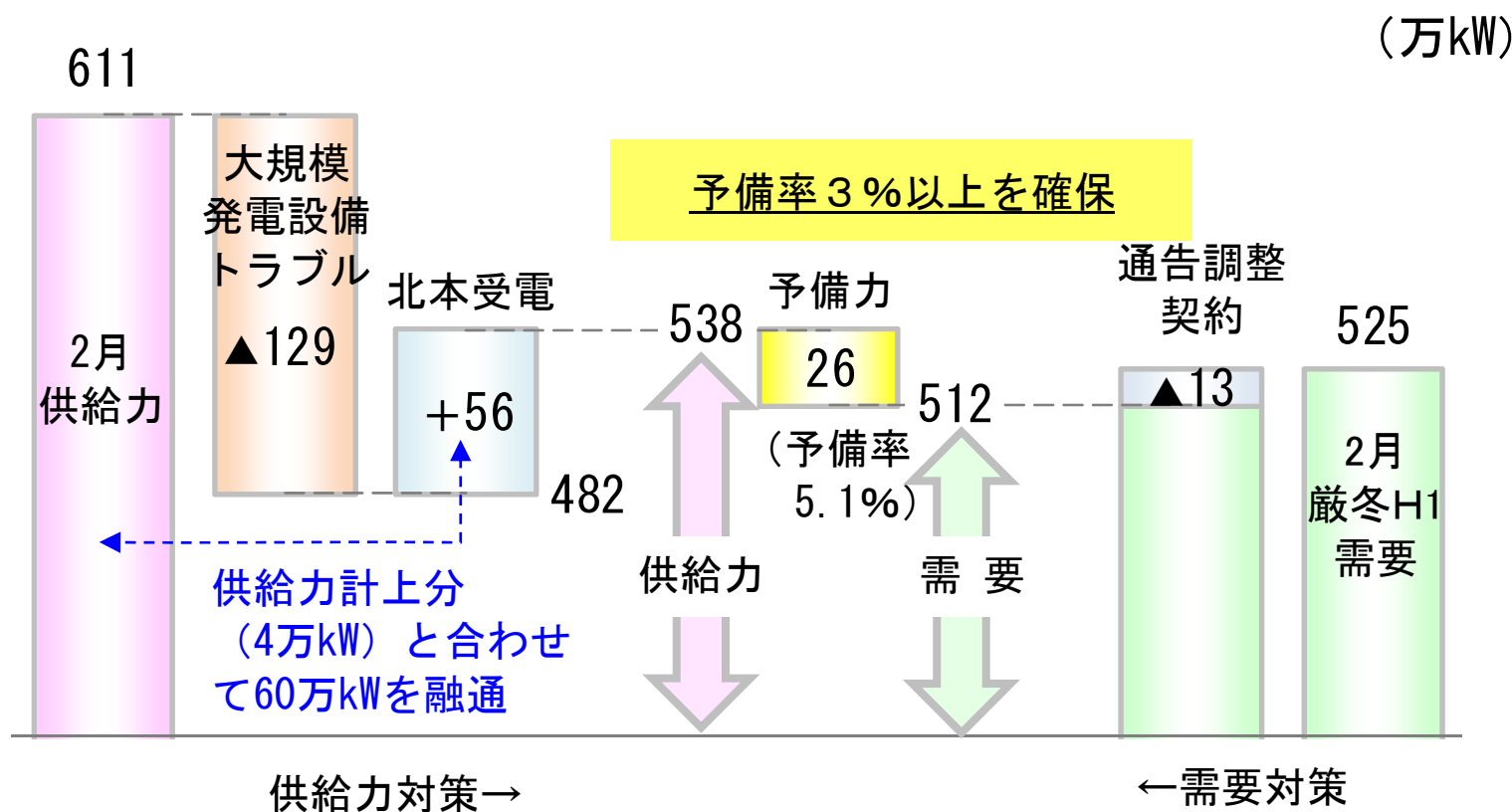
(2) 今冬（2018年度冬季）の需給見通し

- ・北海道エリアの需要および供給力見通しに基づく今冬の需給見通しは、下表のとおりです。最も需給が厳しい2月においても、供給予備率は16.4%程度となり、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%を上回っています。
- ・ただし、エリアの太宗を占める北海道電力の供給力は、火力発電設備が全て運転していることを前提としており、発電設備の計画外停止や出力抑制のリスクが発生した場合の状況を確認し、十分な対応を講じてまいります。

	12月	1月	2月	3月
需要（厳冬H1） [万kW]	525	525	525	481
供給力 [万kW]	615	612	611	615
供給予備力 [万kW]	90	87	86	133
供給予備率 [%]	17.2	16.5	16.4	27.7

(3) 大規模な計画外停止発生時の状況①

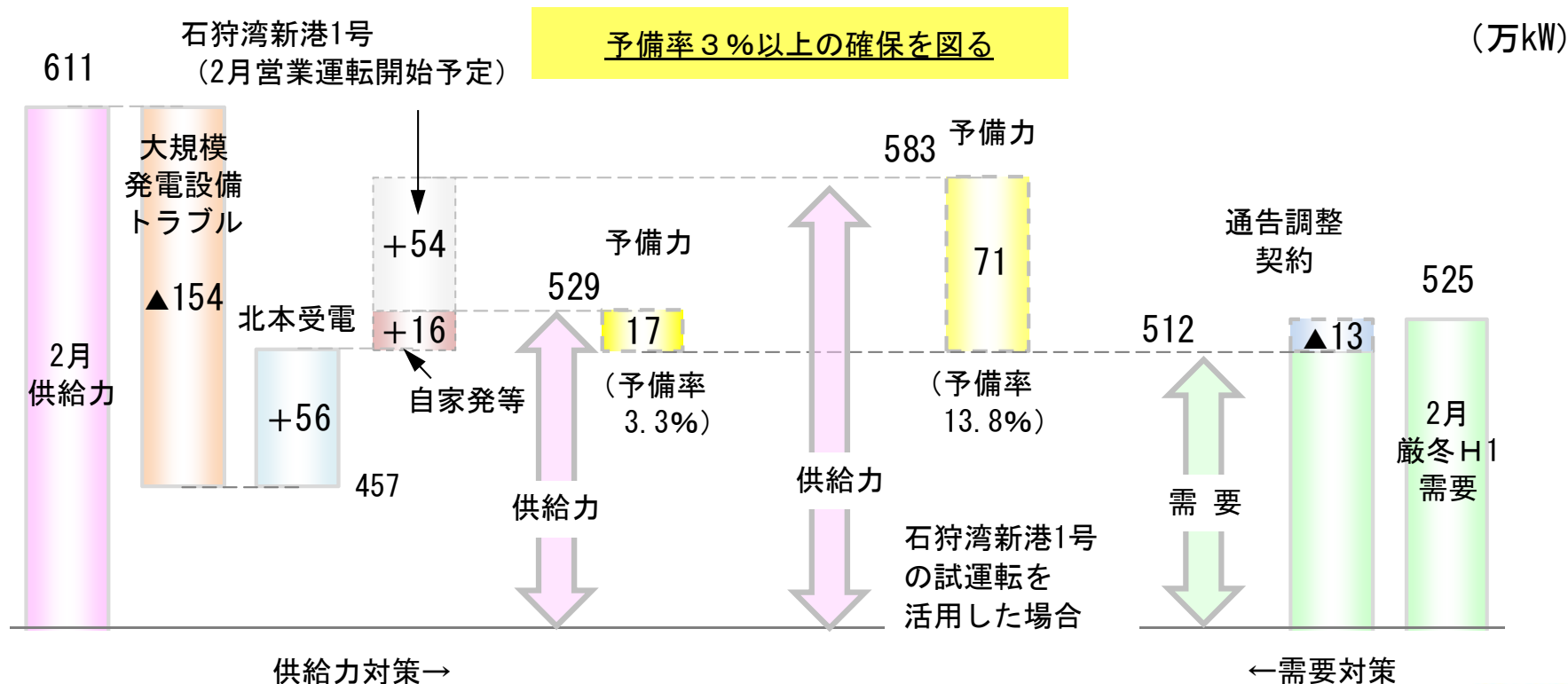
- ・ 昨年度までの冬季電力需給見通しで確認していた2010年の計画外停止・出力抑制発生時と同程度の発電設備の計画外停止（送電端で129万kW）が発生した場合、北本連系設備からの受電と小売電気事業者の通告調整契約を織り込むことで、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%以上を確保してまいります。



※供給予備率が最も低い2月の状況

(4) 大規模な計画外停止発生時の状況②

- ・ 更に大規模な計画外停止（送電端で154万kW）が発生した場合においても、北海道胆振東部地震の際と同様に自家発の焚き増し等のご協力を賜ることにより、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%以上を確保してまいります。
- ・ また、2月の営業運転開始に向け総合試運転を進めている石狩湾新港発電所1号機（54万kW [送電端]）については、総合試運転工程を前倒しの取り組みを進め、緊急時の供給力として活用できるよう努めてまいります。



※ 2月の状況

- ・北海道エリアの今冬の需給見通しは、最も厳しい2月で供給予備率は16.4%となり、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%を上回っています。
- ・また、北海道の冬季の厳しい気象状況を踏まえ、発電設備の計画外停止や出力抑制のリスクについても十分な対応を講じてまいります。
- ・具体的には、昨年度までの冬季電力需給見通しで確認していた129万kW（送電端）の計画外停止・出力抑制が発生した場合、北本連系設備からの受電等により、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%以上を確保してまいります。
- ・更に大規模な154万kW（送電端）の計画外停止が発生した場合においても、北海道胆振東部地震の際と同様に自家発の焚き増し等のご協力を賜ることにより、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%以上を確保してまいります。
- ・また、2月の営業運転開始に向け総合試運転を進めている石狩湾新港発電所1号機については、総合試運転工程を前倒しの取り組みを進め、緊急時の供給力として活用できるよう努めてまいります。
- ・当社は、発電設備や連系する送電線の保守・点検の強化などの対策を進めており、取り組み内容につきましては、11月に国が冬季の需給対策を検討することとなっており、取りまとめ結果を踏まえ、お知らせいたします。